



9月9日に行われた設立50周年記念イベント。みんなで祝い、楽しみました。



50周年記念号

目次 contents	
01	世界に羽ばたく「いたる」になろう 谷山哲浩理事長
02	第一部 設立50周年 記念式典
03	第二部 50周年を祝う会
04	第三部 50周年を祝う会 (職員)
05	勤続永年表彰
06	パン工房 PukuPuku誕生物語 設立50周年記念 事業寄附金募集

世界の50年、さらにその先の未来に向けて 世界に羽ばたく「いたる」になろう

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

1967年9月17日、いたる臨床発達指導センターは第2種社会福祉法人としてスタートしました。当時は施設が借地で措置化にならず、少ない職員はボランティアのような薄給が続ぎ、いつ潰れてもおかしくない状態が26年も続きました。

父である理事長に尊敬の念を抱きながらも、私自身は後を継ぐことを考えていませんでした。しかし平成5年に父が病に倒れたのを機に事業を継承し、施設の土地を購入して措置化し、第1種社会福祉法人の認可を受けました。そのおかげで、経営基盤も固まり優秀な職員を迎えることができるようになり、ご利用者様のご家族の信頼も得て、ようやく法人は安定したのです。

障害者自立支援法も成立し、いつまでも措置による行政のお世話に頼り切るのではなく、自主生産品を作り、障害を持つ方にも働く機会とやりがいを持ってもらい、

少しでも収入を得ることで自立することを目標に、自主生産品の考案や作業の支援に力を入れるようになりました。

おかげ様で措置化以来、一度も赤字を出すこともなく、自主生産品の数も20種類を超え、毎年そして数年先の事業計画に沿って邁進しています。このような状況の中、50周年を迎えることができたのは、いたるをご支援くださった皆様方のおかげです。

今日からは新しい50年のスタートです。今まで私達は「生まれ育った地域でゆりかごから墓場まで」というミッションを東京で展開してきましたが、今後は「日本中」で展開します。

いたるの起業家精神のある職員は、地方で小さな福祉コミュニティを作り、自立と共生を目指す地域社会を実現してほしいのです。

また、この秋からは海外の技能実習生達が日本にやってきます。これをチャンスと捉え、彼らを私

達の仲間を迎えたい。いたるの理念を理解し、一緒に働くことでスキルと貯金を得てほしい。そして数年後、自国に帰った彼らにぜひ福祉の起業をしてもらいたい。彼らに夢を与え、惜しみなく応援しましょう。そうすれば、さらに次の50年後、「世界に羽ばたくいたる」を夢見ることが出来ます。そして皆様のお力を借りれば、この夢は必ず実現するでしょう。

私は、今日このことを決意表明したいと思います。

志を高く持ち、その志を魂に落とし込み、軸は決してぶれず、世の中で福祉を必要としている人、サービスを求めている人がいれば、いたるはどこへでも出ていきましよう。

私はあと数年でここにはいないかもしれませんが。しかし、私の想いと決意をつないだ仲間達が、きつと実現してくれると信じています。今後ともよろしくお願いいたします。

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振り込み 001107128992
(間) 330927346 事務局山本まで



社会福祉法人いたるセンター

設立50周年記念イベント開催

平成29年9月9日(土)、永田町「GRID(グリッド)」で「社会福祉法人いたるセンター設立50周年記念イベント」が行われました。



第一部

50周年記念式典

第一部では「設立50周年記念式典」が行われました。冒頭の谷山理事長の挨拶では、新たな50年に向けた決意表明が熱く語られ、続いて目黒区長を始め来賓の方々からお祝いの言葉をいただきました。

目黒区長 青木 英二様



目黒区で「地域福祉の最前線に立っていただいている」というお礼と今後のさらなる発展への期待の言葉を頂戴しました。
また、11月26日に開催される第2回目黒シテイランで、目黒本町福祉工房の前が午前中の走行コースになっているそうです。職員と利用者の皆様ぜひ応援してあげましょう。



杉並区保健福祉部 部長 有坂 幹朗様

杉並区の「福祉のトップランナーとして」福祉を必要とする方々に光と希望を与えてきたというお言葉を頂戴しました。
これからも行政と手を携えて頑張つてまいります。



世田谷区障害者地域生活課 課長 加藤 康弘様

理事長の、世界に羽ばたく決意表明を聞き、行政も希望を高く持ち、今後もいたると一緒に手を携えてやっていきたいという想いを強くしたというお言葉を頂戴しました。

評議員と役員のご紹介に続く乾杯の後は「歴史をたどるスライドショー」を見ながら会食・歓談タイム。あちこちのテーブルで思いついた話に花が咲きました。



大信田和義評議員による乾杯

50周年を迎えられたのは、ロマンと夢の塊のような理事長と頑張ってきた職員さんの力の賜物です。おめでとうございます。乾杯！



歴史をたどるスライドショー



歓談の様子

第一部最後の挨拶に立った阿久津庄司統括マネージャーは、昭和60年の入職当時、利用者15名、職員5名の小さな法人で昼も夜も働いた大変な時代を振り返りつつ、次の言葉で締めくくりました。
当時から変わらぬいたるのスピリットは「福祉サービスを求める人の期待に応えるため、最大限の努力をする」ということです。それを必ず実現してきました。
次の50年も変わらず「求める人の期待に応える法人」であると同時に、「職員の期待にも応える法人でありたいと考えています」。



阿久津統括マネージャー 締めのご挨拶



第二部

50周年を祝う会

第二部は、司会の松本さん、職員の皆さんの「いらっしやーい、こんにちばー」という温かい歓迎の声に招かれたご利用者様とご家族が入場してスタートしました。職員とご利用者様、ご家族が一堂に会する初めてのイベントです。理事長も一部のきりつとした顔から、優しい顔に変わってご挨拶。「いたるの満50歳の誕生日に、こんなにたくさんお祝いに来てくれてありがとうございます！今日はご利用者様とご家族が主役です。歌も踊りも何でもありで、アットホームなお祭りを楽しんでください！」 さあ、お祭りのスタートです！

お祝いの言葉

いたる阿佐谷親の会代表

中村なぎ様

子供が利用するようになって間もなく15年です。

困ったことやわからないことがあるたび、頼りにさせて頂いたのは、いたるセンターで、そのたび助けられました。

また、子供の成長を見た時、嬉しいことがあった時、一番に報告



したいと思うのは、いつも子供に寄り添ってくれている職員の皆様でした。

この場を借りて親達の気持ちをお伝えしたいと思います。いつも子供に寄り添っていただいて本当に感謝しています。ありがとうございます。

これからも、全ての利用者がその人らしく、楽しく、幸せな人生を歩めるようによろしくお願いいたします。

また法人の皆さん、職員の皆さんのご多幸をお祈りしています。

◆ ◆ ◆

ご利用者様代表

あけぼの作業所 小林哲平様

突如流れ始めた大音量のテーマソング、そして会場全員の「こー



ばやし！こーばやし！」というコールに乗って、学ランで決めて応援団に扮したご利用者様代表の小林さんの登場です。

壇上上がるとまずは特技のスプーン曲げを披露し、「50周年おめでとうございませう！」と元気いっぱい挨拶してくれました。あまりの盛り上がりっぷりに、司会の松本さんはたじたじの様子でした。



応援団に扮した小林哲平さん(左)

『あいするひとはすてき』ミュージックビデオ上映

小林哲平さんの挨拶で盛り上がった会場を、ミスター茶谷の登場がさらに盛り上げます。

奇抜な衣装で自らテーマソングを口ずさみながら盛り上げる庄巻の爆笑パフォーマンスで、いたる50周年テーマソング「あいするひとはすてき」ミュージックビデオ上映会のスタートです。



司会のミスター茶谷さんと、ミュージックビデオの制作スタッフ

全事業所を撮影して、できるだけたくさんのご利用者様が出演できるようにビデオを制作してくださいました。

当日は公式バージョンの他に、事業所ごとのプレミアムバージョンも合わせ、計6本のミュージックビデオが上映されました。プレミアムバージョンの上映は各利用者の皆さんも前に出て、曲に合わ

せて踊ったり歌ったり、ビデオの中と同じイキイキしたすてきな笑顔が溢れる時間でした。

「皆のいつものイキイキしているところが出ていて良かった」「すごく良かった、これからのいたるをよろしくお願いします」「ミュージックビデオに出られて楽しかったです、ありがとう」という喜びの声でいっぱいでした。



「一緒に歌ってくれますかー？」の掛け声でヴィレッジセブンの演奏がスタート。会場が一体となって歌って踊って、笑顔が弾けた最高のライブでした♪



「あいするひとはすてき」ができるまで

作詞：マエキタミヤコさん

「理事長が歌に込めたい想いは「愛だよ、愛！」ということだったので、その強い想いが伝わるように詞を書きました。」ビデオ上映後「理事長の想いで書いた歌詞は皆さんのことだったのがわかりました。最高の多様性、インクルージョンです」。

作曲：もりばやしみほさん

「みんなのうたのように、誰もが簡単に口ずさめて楽しい歌になるように作りました。」ビデオ上映後「最初はバラードっぽく作ったのですが、理事長からもっと明るくて踊れるようにしたいとリクエストをいただきアレンジを重ねて完成しました。初めて聞いた皆さんが、歌って、踊ってくれる様子を見て、理事長の意図が理解できたと、とても感動しました。」



「あいするひとはすてき」MVの映像

いたるセンターのHP特設ページで、このMVが閲覧できます。

↓こちら



『あいするひとはすてき』のMVも、いたるセンターにかかわる多くの人々が登場し、作業に取り組む姿や、暮らしを楽しむ姿を紹介しています。障害のあるなしに関わらず、分け隔てなく、支え合いながら生きる映像には、差別や偏見を超えるパワーがあります。日本中、世界中の障害者施設の皆さんにも、この曲を楽しんでもらえたら。そんな気持ちで、このテーマソングを作った原点なのです。

『あいするひとはすてき』は、いたるセンター設立50周年を記念して作られました。音楽はみんなを楽ししくし、思いやメッセージを、かるやかに伝えられます。唄ったり、踊ったり、映像も作れば、みんなが登場できます。フアレル・ウイリアムスの『Happy』をご存知ですか。ロサンゼルスの人々が曲に合わせて踊るMV（ミュージックビデオ）が人気を博し、世界中の人々がトリビュートビデオをYouTubeに公開し、さらに多くの人々を楽しませました。

日本中、世界中のみんなに「このうたを楽しんでもらいたい！」

20年表彰 堀 浩一さん
20年の中で一度だけいたるを離れたことがありました。その時は色々な人達に支えられ、声をかけられて、続けることができました

- 10年表彰
 - 山本 由紀子(阿佐谷福祉工房)
 - 山崎 智子(サポートウイズ)
 - 春山 陽子(すまいる高井戸)
 - 桑原 智代子(あけぼの作業所)
 - 佐藤 章(目黒本町福祉工房)
 - 福島 和久(グループホーム)
 - 白瀧 則男(グループホーム)

永年勤続表彰式が行われ、8名の職員が表彰されました。さらにこの先10年、20年と後輩を引っ張ってまいります。ご活躍ください。

永年勤続表彰



第三部

50周年を祝う会(職員)

第三部は永年勤続表彰で始まり、その後はマジックショーやお笑いステージ、JAZZ演奏を楽しみながら飲んで笑って、職員が主役の楽しいお祭りで幕を閉じました。



永年勤続表彰者のみなさん

した。そうした皆の声の中から『私達は君のことを思っているからね』というメッセージが心に届いたのだと思います。後輩の皆さんもこれからの人生の中で、何かしらのメッセージが心に届く時があると思います。それをしっかりキャッチして、幸せに生きてほしいと思います。



谷山理事長から感謝の辞
地域ケアセンター所属の堺さんの挨拶を受け、理事長から感謝と今後への期待の言葉がありました。「永きに渡りいたるの発展に貢献してください、ありがとうございます。」
人が人財であり、一番大事です。いたるは、皆さんの人間性によって発展できたのだと思います。志を強くもち、軸をぶれずにやってきた先輩たちのおかげでいたるは発展しました。
後輩の皆さんは、今日表彰された先輩達を見習い、いたるの発展に寄与してください。」



いたるセンターの50年と私
すまいる高井戸 春山陽子さん

50周年では、10年の表彰をいただきました。ありがとうございます。いたるセンターとの出会いは、今から40年ほど前の日本社会事業大学のサークルでボランティアに来た時でした。夏の海合宿や冬のスキー合宿、バザーの手伝い、日頃の作業の補助等学年があがるたびに、多くの時間を現在の阿佐谷福祉工房で過ごし、多くのことを利用者の方から学びました。

就職後や結婚後も時々ボランティアで参加していましたが、仕事や育児・介護が忙しくなるにつれ、疎遠になっていました。10年前に、いたる相談室を復活させたいとの依頼があり、再び利用者の方に会うことができました。またこの10年の間、家族の方や大勢の熱い思いの方々に巡り合うことができました。充実した10年だったと思います。現在はすまいる高井戸で相談支援をして6年目ですが、これからも利用者の方の思いを大切にしていきたいと思っています。



ボディトレーナーによる「自分でできる身体づくり」



ジャズライブ、素敵でした♪



お笑いやマジックショーでみんな楽しみました。



中島事務局長 終わりの挨拶



ジャズ演奏の岸田様



ご協力いただいた西松様



実行委員のみなさん

実行委員のみなさま
お疲れさまでした。

谷山理事長から「松本さんの好きな様にやって下さい」と言われて半年、50周年記念式典をどのようにすれば「明るく・楽しく」盛り上げることが出来るのか、色々考えながらの日々が続ききました。結果として、実行委員をはじめとする職員の方皆さん、そしてサステナさん他、多くの方々のご協力を頂き、無事に式典を終える事が出来、大変安堵している次第でございます。

個人的には、式典の当日に会場利用者の方々の皆さんのほけるような笑顔、歓声、保護者の方々のにこやかに談笑されている姿を目の当たりにして、半年の間、日々の業務お忙しい中ご協力して下さいました皆さん方のご努力が報われたのだらうな、と大変嬉しく感じた事が今でも心に強く残っております。素晴らしい一日に感謝です。



50周年記念イベントを終えて
実行委員長 松本邦夫さん

ピックアップいたる

社会福祉法人いたるセンターの
“今”話題の取り組みやイベント、生産品等をご紹介します。

パン工房PukuPuku 誕生物語

・福祉パンではなく、本物のパンへ

「福祉パン」という言葉をご存知ですか？
かつて、パン製造を行う福祉作業所が多かったのですが、味や出来栄はともかく、ご利用者が通所施設に滞在される時間に合わせて作られるパンという意味で使われていたようです。本来は、ランチや朝食といったお客様が食べたい時間帯に、焼きたての美味しいパンを提供するのがパン屋の店主や職人の仕事ですが、「福祉パン」は消費者よりも利用者を一番考えるのですから、普通のパン屋さんとは競争にならないわけです。
社会福祉法人いたるセンターも、創立当時、「いたるパン」というパン製造業を行いました。これはまさに「福祉パン」事業だったので、当然のごとく失敗したのです。
「いつか、本物の美味しい焼きたてのパンを届けたい！ 地域のお客様に愛され親しまれるお店を作りたい！」そうしたい思いが、「パン工房PukuPuku」を誕生させるきっかけになりました。



平成21年6月20日オープン時は開店時間前から行列ができました



昔も今も、緑の看板が目印です



いまも人気の国産小麦・天然酵母100%のパン



焼きたてのパンが楽しめるイートイン



・目指したのはオンリーワン

「いたるパン」の失敗から得た教訓は、「オンリーワン」の本物のパンを作ることでした。
PukuPukuのパンは、国産小麦100%で有機天然酵母100%、塩やバターも天然で良質な素材を使用し、イーストフードや添加物は一切使用していません。
美味しいことはもちろん、自分の子供に安心して食べさせたいものを作る、オンリーワンの安全・安心へのこだわりを大切にしているからです。また、杉並区では唯一の就労継続支援A型事業であることも、オンリーワンのひとつでした。
こうして誕生したパン工房PukuPukuは、平成21年6月20日、環状8号線沿いの南荻窪に店舗を構えてスタートしたのです。
(次回「PukuPukuの新たな挑戦」をお楽しみに)

コラム:PukuPukuの名前の由来

「どうして“ぷくぷく”という名前にしたの？」不思議に思う方も多いので、今回は店名の由来をご紹介します。
パン工房PukuPukuは、低温で約12時間かけて発酵させた「あこ有機天然酵母」100%のパンを作っています。発酵中の酵母が「ぷくぷく」と泡を出す様子から、この名前を付けました。
あこ酵母はコメと小麦で昔ながらの酒造り製法を用いて培養したもので、小麦粉の風味を損なうことなく、酵素によりアミノ酸形成された旨みを十分に引き出してくれる天然酵母です。保存料やイーストフード等を一切使用しないパン工房PukuPukuの安心と美味しさの秘密は、店名の由来となった酵母の“ぷくぷく”にあるというわけです。



住所：東京都杉並区南荻窪4-1-15 電話・FAX:03-6795-5695
(環八通り沿い「荻窪二丁目交差点」の角です)
営業時間：9:00～19:00(イートインスペース・ラストオーダー:18:30)
定休日：日曜・祝日(祝日は一部営業します)

いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成29年10月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



設立50周年記念事業寄附金募集

設立50周年にあたり、次代を担う人財の確保と教育・育成を進めるための寄付金を募集します。みなさまのあたたかいご支援を、お待ちしております。

事業内容：次代を担う人財の確保と教育・育成
ご寄付のお礼：社会福祉法人いたるセンター・設立50周年記念誌をお贈りします。
募集目標額：1,000万円
募集期間：平成29年7月1日～平成30年3月31日
お振込み先：西武信用金庫 荻窪西口支店 普通口座 2201961
口座名義：社会福祉法人いたるセンター 理事 谷山哲浩
※お振込後、法人本部山本聖示まで、ご一報いただければ幸いです。
寄附申込書を郵送いたします。
電話：03-3392-7346 (法人本部・山本聖示)



50周年記念誌